



## ニュース&amp;トピックス

## マスクの着用について

厚生労働省より、令和5年3月13日以降のマスク着用について、『個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねる』との発表がありました。トライアングルでは、感染症予防対策のためにスタッフのマスク着用は継続させていただきますが、通所してくださるお子様・保護者につきましては、個人の判断での着用をお願いいたします。

## 保護者面談について

トライアングルでは、これまでのお子様の表れや今後の在り方について、今月も保護者面談を実施します。面談は静岡大学の香野 毅先生が行います。

3月の面談日程は、スケジュールが決まり次第トライアングルの玄関に掲示します。面談を希望される方はトライアングルスタッフにお声がけください。

## ご意見・ご感想をお寄せください

第28回目のニュースレター、いかがでしたか。

まだ、至らない点がたくさんあるかと思えます。今後さらに内容を充実させていくために、ご意見・ご感想等、なんでも結構です。下のメールアドレス宛にどしどしお送りください。よろしく願います。

triangle@shizuoka-fukushi.or.jp

**川辺** を散歩していて、かわいい桃のつぼみを見つけました。すっかり春めいて、スプリングコートもいらぬほど暖かい日が増えてきましたね。ニュースレター第28号をお届けします。今回もお楽しみいただければ幸いです。春とはいつても朝晩はまだ寒さが残っています。風邪など引かれませぬよう、くれぐれもお気をつけください。

## あらためまして『こどもにきく』

静岡大学教育学部 特別支援教育 教授 香野 毅

**大袈** 大袈裟、大雑把に言えば、福祉や医療、教育の世界はひとつの方向に進んでいるようです。それは「当事者性の復権」です。

「私たちぬきに私たちのことを決めないで！（Nothing about us, without us!）」は国連のある委員会が使われたフレーズで、この主張は長年続いてきたものです。これは制度や法律のみならず、日常のあらゆる場面に適用することができます。まあ晩ごはんのおかずくらいは許してほしいものです。

並行して、インフォームドコンセントという言葉が医療から使われるようになり、常識となりました。治療方針や方法について、医療者が患者に情報を与えて、同意のもとで進めていく、こんな当たり前のことが当たり前でなかったのです。いま偉そうな人にはこの常識が求められます。企業、政治、学校…、ん～まだまだですね。

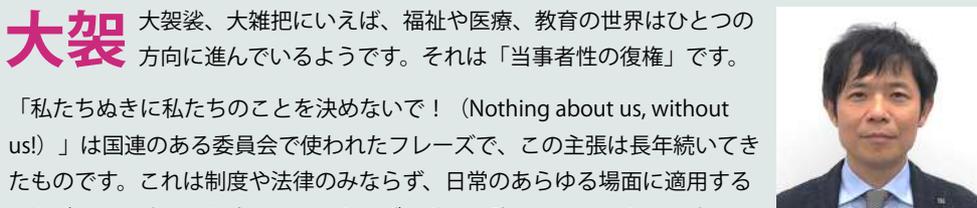
学校や福祉の現場では、指導計画や支援計画を作成することになりました。その作成過程に、本人や保護者にニーズ他の聞き取りを行い、作成後には案として提示し、同意（サイン）を得ることは、もはや一般的です。しかしその開始期には、戸惑いや混乱がありましたね。

さてこれらをもって、当事者の意思や決定が真に尊重される時代になったと言えるでしょうか。

昔から、授業や指導の評価は「こどもにきく」と言われてきました。テーマや展開を考え、教材や環境を準備する。それが適切だったかは、結局のところのこどもの反応でみるしかないのです。これは保育や教育の鉄則にして、究極です。メシ屋の評価は客ですよ。これにあらためて則って、制度も指導計画も日々の活動も「こどもにきく」ようにしたいものです。

さて復権と書きました。元々持っていた権利を再獲得するという意味ですね。医療も福祉も教育も、本来はスタートも、選ぶのも当事者だったのです。それがいつの間にか、それを受けるのが前提になってしまい、行かない、やらない権利すらなかったように扱われています。こんな当たり前のことに、不登校している子どもたちが気づかせてくれます。

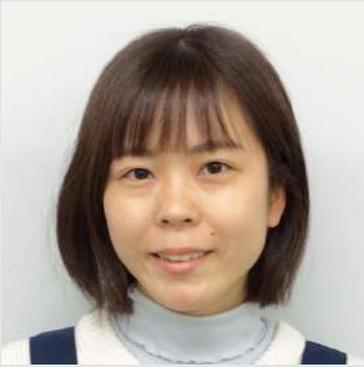
もうひとつ当事者となりました。じつはこれ、揺らいでいる言葉です。当事者って誰のことなんだろう＝当事者じゃない人って誰だろう？となります。先生と言われる人だって、社会の一員で、老若男女の家族がいます。健康そうな人だって、いつかはなにかの予備軍です。生涯にわたってみればみな当事者なのです。この世は当事者が当事者を支援したり、支援されたりしているのです。なんだかグルグルする話ですが、要するに「みんな大して変わらんぞ」となって、いつでも中心にいるこどもにきいてみようとなるわけです。



上「カレッジまどか」新校舎 下「カレッジまどか」講師陣



## スタッフ紹介



### 白井 木のみ先生

**好きなこと：**ピアノを弾くことが好きで、特技でもあります。ジャンルは問わずクラシックから流行りの曲、ジブリや映画・ドラマのBGMなど、気に入ったものは何でも弾きます。

**やりたいこと：**北欧の家具やインテリアが好きなので、少しずつ買い揃えて理想の部屋にしてみたいと思っています。現在、京都で開催されている『イッタラ展』にも行ってみたいと計画中です。

**一言：**今まで『ぱっそ』では幼児と多く関わってきましたが、『トライアングル』で児童ならではの遊び・発想・悩みに触れ、刺激的な毎日です。そんな子ども達と一緒に考え・学び、時には失敗しながらも少しずつ成長できたと思います。

## 教室のひとこま

教室の様子はホームページでも紹介しています。ぜひ、ご覧ください。



「やってみたい投げ方があるけど、やってもいい？」ルールに書かれていないことを確認してくれました。成長しているね。



同じものを作るために「どう伝えたら相手に伝わるのか」と真剣に話し合っています。全問正解を目指そう！



ハイパーホッケーで、審判・記録係を申し出てくれました。それぞれの『得意』が良い形になり楽しくゲームができました。



強力磁石の石を交互に置くゲーム『待石』。置いてある磁石がくっつかないようにそーっと置くことがコツです。

## 子育てのヒント その言い方で子どもに伝わっていますか？

**子ども**もは周りの人から受け入れられたり肯定されたりすることで、自分を好きになることができます。だから、子どもに対する保護者の言葉がけはとても重要だといえます。子どもに何度も指示をしたり注意をしても言うことを聞かない場合、子どもではなく、以下のような大人側の伝え方に問題があることも多いのではないのでしょうか。**1. こそあど言葉**「あれ片付けて」「そういうことしないで」などと言っていませんか？、「おもちゃを片付けて」「お箸を取って」と具体的に言ってあげましょう。**2. 目的語などを省略していない？**「早くして」では何を早くすればいいのか、どうしたら早くできるのかは伝わりません。「ご飯を早く食べよう」「ゲームをやる前に宿題を済ませちゃおうね」のように省略せずに言ってあげましょう。**3. 抽象的な伝え方をしていない？**「ちゃんとしなさい」「いい子にしている」では具体的な表現がなく、どのようにしたらいいのかわかりません。「ママの電話が終わるまで静かに本を読んで待っててね」「喧嘩しないで仲良く遊ぼうね」のようにどうしたらいいのかを具体的に言ってあげましょう。

参考：高山恵子 保護者のための『ペアレントサポートプログラム』 Gakken, 2016年, p.50-52

## スタッフのオススメゲーム『ギリギリアイスゲーム』

**今回**ご紹介するのは、以前このコーナーでも登場した人気ゲーム『クラッシュアイス』の友愛玩具さんから販売されているパーティーゲーム、『ギリギリアイスゲーム』です。遊び方はいたって簡単。まず、ゲームを始める前に簡単なセッティングが必要です。上部の円に、付属の薄紙をピーンとなるように挟み込み、写真下の外周には水を入れて中にビー玉を入れます。順番を決めて最初のプレーヤが Tongue を持ったらゲームスタート。プレーヤは順番に Tongue を使い水に浸かっているビー玉を円形の紙の上に乗せていきます。次々とビー玉が紙の上に寄せられていきますが、ビー玉が水に濡れているので、紙は次第に強度を失い破れてビー玉は落下してしまいます。ビー玉が落ちた時に Tongue を持っている人が負けとなるので、ビー玉を乗せたらすぐに Tongue を次の人に渡すことが勝つための秘訣。いつ破れてしまうのかハラハラドキドキで、子ども達はキャーキャー言いながら遊んでいます。メーカー推奨年齢は6歳からとなっていますが、小さなお子さんも楽しく遊んでいます。2～4人で遊ぶことができますので家族にもおすすめのゲームです。



**編集後記** 知人たちと観光地に出かけたのだが、食事の時に来るべきではなかったと気づいた。私は潔癖症で不衛生な店は絶対に無理。朝食はカップ麺を食べて難を逃れたが、その後も「美味しいから食べな」といろいろ勧められる。勇気を振り絞って食べていたが苺は断った。タイ人はトイレ後に手を洗わない人が多い。手渡しのは食べれない。帰りに寄ったタイ料理店では食べないわけにもいかず、量が少なめのヌードルスープを注文。これがなんと「うま～～～い！」。確かにタイ料理はおいしい。(M)

## トライアングル

放課後等デイサービス

### 特定非営利活動法人 しずおか福祉の街づくり

〒420-0032 静岡市葵区両替町1丁目7番5号 放生館2F

TEL : 054-273-1177 FAX : 054-266-4037

トライアングル・トライアングル両替町教室

ホームページ : <https://www.shizuoka-fukushi.or.jp/>

メールアドレス : [triangle@shizuoka-fukushi.or.jp](mailto:triangle@shizuoka-fukushi.or.jp)